

デザインマネジメント概論(デザマネ)第三回 渡邊英徳

次回講義開始時間までのレポート課題「震災の記憶を伝える十年後のコンテンツデザイン」

- [前回の講義内容も踏まえること。](#)
- [昨年の先輩たちのレポート\(全件\)](#)ただし、昨年は「現時点でのコンテンツデザイン」がお題でした。今年は「**2021年**にどんなコンテンツをデザインするか」について考えてみてください。
- [こちらから回答してください。](#)

以下、本日の講義で解説するコンテンツ

NHKニュース(3/11 14:45過ぎからのニュース映像)

- 国会中継の途中で緊急地震速報が鳴り「国会でも揺れを感じています」と中継。
- 菅・元総理が献金の件で追及を受けていたが、揺れる国会内で議員たちも動揺。
- 国会中継から強制的にスタジオに映像が切り換わる。
- 仙台からの中継映像が静止し、スタジオが大きく揺れ始める。
- 本来放送されないディレクターの声が聞こえる。「揺れてるよ！東京撮って！」
- 2年以上経った今、この映像を再見することで、当時の緊迫し混乱した状況や、アナウンサーの冷静な仕事ぶりを観察することができる。「その時、何が起きる。そして何をすべきなのか」について考えることができる。

YouTubeの検索結果

[東日本大震災](#) | [津波](#)

- 誰でも簡単に動画を撮影し、ウェブ上で配信できるようになった時代に起きた災害。無数の動画を通して、個人個人が体験した震災の姿を知ることができる。
- YouTubeなどの検索結果は「多くアクセスされたものが上位に並ぶ」ようになっているため、ショッキングなタイトルをつけた動画にアクセスが集中する傾向がある。動画は最後まで観ないと中身がわからない。有用な映像が埋もれる可能性がある。

[JNN大震災記録プロジェクト 報道の日2011](#)

- 3/11の映像を、放送日の同時刻に重ねて放送した番組。震災発生前の穏やかな東北の港のようす、発生時の混乱、長周期地震動で揺れる高層ビル、津波が押し寄せてくるまでの現地のようなようすなど、同時多発的に起きたできごとをつないで、リアルタイムに再現。「リアルタイム(同期的)メディア」であるテレビならではの番組。

[2011東日本大震災デジタルアーカイブ\(ハーバード大学ライシャワー日本研究所\)](#)

- “海外の大学に設置された日本についての研究機関”ならではの視点で、客観的かつ俯瞰的

に「既存の東日本大震災に関するデジタルコンテンツ(デジタルアーカイブ)」を網羅した「メタアーカイブ」。膨大な量の資料が収集されている。

- 保存された記録が震災についての直接的な資料として短期的にお役に立つだけでなく、2011年3月11日に起きたこと、そしてそれが日本と世界にもたらしたものを、研究者が将来理解できるため長期的に意味あるものにできますよう願っています(ウェブサイトより転載)
- デフォルトが日本語表示である理由(制作者からTwitterで教えていただいたもの)

当アーカイブの言語についてですが、当初は「日・英・中・韓」デフォルトでした。しかし(1)アーカイブという形での長期的復興援助であること、(2)日本の個人・団体の様々なレベルでのご協力が不可欠であること、などを主な理由として、早い段階から日本語デフォルトに切り替えました。

ただ、アーカイブされた情報のタグ付けをご覧になるとおわかりになると思いますが、英語のみの情報もかなりございます。また随所で日本語と英語が同程度に併記され、さらに現在も中国語・韓国語も“ほぼ”デフォルトになっています。

ということで、まさに日本人(の研究者)の方を含めた、被災地の方、そして世界のお一人お一人、研究者、そして政策に携わる方を対象にしているとお考え頂いた方が良いかもしれません。そういった中で、日本語が主に使用されているのは上記の理由による、ということです。

[NHK東日本大震災アーカイブス](#)

- 震災発生後に放送されたNHKの番組のアーカイブス。地図上で／地域別に絞り込んで閲覧可能。震災発生直後に放送された映像に加え「[わが町、復興の軌跡](#)」と題し、現地を長期的に追跡した取材映像も網羅。
- 無数の資料を地図に載せることで、映像が撮影された時間場所、あるいは映像どうしの時間的・空間的関連性を提示している。

[3.11 震災・復興・朝日新聞デジタル](#)

- 被災者へのインタビュー記録1000件を閲覧できる。渡邊研が制作した「[東日本大震災アーカイブ](#)」に一部を掲載している。1年目・2年目を追跡したインタビューも。
- 「[ヒロシマ・アーカイブ](#)」等の証言とは異なり、当時の悲慘な状況ではなく、現在どんな暮らしなのか、これからどういう生活を送りたいのか、など。現在・未来についての話題が中心。

[東日本大震災ウェブアーカイブ | インターネット資料収集保存資料](#)

- 被災した自治体のウェブサイトを収集し、保存しているデジタルアーカイブ。震災発生後「他所の自治体ウェブサイト」を閲覧していたユーザは少ないと思われる。当時の現地の状況を知るために有用。
- [3/14の岩手県公式ウェブサイトは緊急伝達項目で真っ赤](#)。当時は、原発事故に起因する放射性物質漏洩の状況がはっきりとわかっていなかったため、放射線量に関する情報は、自

治体のウェブサイトでは控えめに扱われているようにも見える。

[未来へのキオク - ストリートビューで見る](#)

- 被災前後のストリートビューを比較。押し流された家屋、浸水した田畑などの被害状況を、健在だったころの風景を同時に閲覧できる。大規模なデータを扱うことができるGoogleならではのコンテンツ。
- ストリートビューは専用車から撮影する写真をつないだコンテンツであるため、車道以外からの風景を閲覧することはできない。また、被災前のストリートビューが存在しない道路もある。
- [警戒区域である浪江町のストリートビューも公開された。](#)

[おなかがいたくなった原発くん](#)

- メディアアーティスト八谷和彦氏が3/15に公開した映像。原発事故の状況と、それが及ぼすであろう影響について、キャラクターをもちいて親しみやすく解説したもの。当時話題となり、公開後現在までに約173万回再生。
- 当時得られていた情報をもとに制作されたため、その後公表された情報との食い違いも生じており、YouTube上では否定的なコメントも。

[東北地方太平洋沖地震・首都圏帰宅ログ](#)

- [太山顕氏](#)（特別講義していただきます）が制作したコンテンツ。
- 「帰宅ログ」とは、先日の大地震の後、公共交通機関が麻痺したあの夜、首都圏においてみなさんがどうやって帰ったか、をぼくが教えてもらって記録したもの（以上、ウェブサイトより引用）
- 震災発生後に交通機関が麻痺した首都圏における、個人の帰宅経路を収集してマッピングしてある。[初回講義](#)で紹介した事例群のように、多数の個人が提供した情報を集積し、俯瞰できるようにしたもの。通常の路線検索によって知ることができない「非常時に一人ひとりが選んだ道程」を知ることができる。

[被災者が撮影した写真と生の声を届けるフォトブック「Life after Shock」](#)

- *Life after Shock*は、岩手県釜石市鵜住居町で被災した中村佑貴氏が撮影した写真と状況説明および音声で構成されたフォトドキュメンタリーブック。被災者自身が体験や感じたことを綴った作品となっている。*iBookstore*は現在日本向けの有償書籍販売を行っていないため、海外向けの販売のみとなるが、日本での対応が開始され次第*Life after Shock*の販売も行う予定。また、今後同様の構成で、被災者自身の生の声を綴った作品をリリースする予定となっている（ウェブサイトより転載）
- 被災者自身が震災に関するデジタルコンテンツを制作し、*iBookstore*で販売する。社会的意義に加え、被災者が生活を再建するモデルとしても評価することができる。

[3.11 忘れない FNN東日本大震災アーカイブ](#)

- FNN系列の報道映像のアーカイブ。当時のTV撮影クルーのみた被災地の姿。各々撮影地点がはっきりしているので「[東日本大震災アーカイブ](#)」にも一部を掲載している。

[国立国会図書館東日本大震災デジタルアーカイブ](#)

- 散在していた東日本大震災のアーカイブズを統合・横断検索できるようにしたもの。

3月7日(木)に東日本大震災に関するデジタルデータを一元的に検索・活用できるポータルサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)」を正式公開しました。東日本大震災に関連する音声・動画、写真、ウェブ情報等を包括的に検索できます。検索できるコンテンツは、「[検索対象データベース一覧](#)」および「[コンテンツの紹介](#)」をご覧ください。(以上、ウェブサイトより引用)

- データベースとしての価値、社会的意義が大きい。ただし、キーワード検索が主であること、インターフェイスデザインがわかりにくいなど、使いづらいという批判もみられる。改善が必要かと思われる。

[福島第一原発観光地化計画](#)

福島第一原発観光地化計画、それは読んで字のごとく、福島第一原発の事故跡地を「観光地化」する計画のことです。といっても、それは現在の事故跡地の話ではありません。この計画は、除染が十分に進み、一般市民が防護服なしに数百メートルの距離まで安全に近づけるようになった、事故から25年を経た未来の跡地を想定しています。2036年の福島第一原発跡地に、どのようにひとを集め、どのような施設を作り、なにを展示しなにを伝えるべきなのか、それをいまから検討しよう、そしてそのビジョンを中心に被災地の復興を考えようというのが、計画の主旨です。(以上、ウェブサイトより引用)

- [「福島第一原発観光地化計画」Twitter検索結果](#)を見てみると、賛否両論、議論が活発に行われている。
- 「[陸前高田の一本松](#)」保存に向けた動きや、下記の「原爆ドームが被爆遺構となった経緯」を踏まえ、この計画のありようについて考えてみたい。

[原爆ドームが被爆遺構となった経緯について\(Wikipedia\)](#)

- 広島市当局は当初、「保存には経済的に負担が掛かる」「貴重な財源は、さしあたっての復興支援や都市基盤整備に重点的にあてるべきである」などの理由で原爆ドーム保存には消極的で、一時は取り壊される可能性が高まっていたが、流れを変えたのは1人の女子高校生、楳山(かじやま)ヒロ子の日記である。彼女は1歳のときに被爆し、15年後の1960年、「あの痛々しい産業奨励館だけが、いつまでも、おそるべき原爆のことを後世に訴えかけてくれるだろうか」等と書き遺し、被爆による放射線障害が原因。とみられる急性白血病のため16歳で亡くなった。この日記を読み感銘を受けた平和運動家の河本一郎が中心となって保存を求める運動が始まり、1966年に広島市議会は永久保存することを決議する。(以上、ウェブ

サイトより引用)

以下は渡邊研究室のメンバー中心として展開されてきたプロジェクトです。詳細はリンク先を参照してください。

- [計画停電MAP](#) | [ITmedia記事](#)
- [足湯のつぶやきbot](#)
- [原発からの距離マップ](#)
- [通行実績情報マッシュアップ](#) (現存しないためGoogle検索結果へリンク)
- [東日本大震災アーカイブとARアプリ](#)